校長室だより～燦燦～ №８４８

福島から変わろう

2023.9.17

若い頃の話です。見てみたい授業がありました。それは、ベテランの先輩の授業でした。実践発表やお話を聞いているうちに、授業が見たくなりました。ある年、チャンスが巡ってきました。福島地区中教研の秋の研究協議会のときでした。ビデオでしたが、その授業を見ることができました。予想はしていましたが、そこには、生き生きと発言する生徒の姿がありました。先生が、少し話すだけで、生徒が、どんどん発言していきます。生徒の発言によって、授業が進んでいきます。

なぜなんだろうかと考えました。発問が違うのです。生徒が考えたくなるような、話したくなるような発問だったのです。それに比べて、自分の授業はというと、目の前の生徒たちに申し訳ない気持ちになりました。これではいけない、何とかしなければ、焦燥感にかられました。

それまでの私は、どのように授業を進めるかは考えていました。ところが、教材研究にかける時間が、いつの間にか減っており、学習課題や発問を吟味するということが少なくなっていました。授業が、教師主導で、一斉形態が多くなるのは、当然の帰結でした。

それからは、学習課題を必ず吟味してから、授業に臨むようにしました。学習課題をじっくり考えると、発問もついてきます。発問の構成により、授業の進め方を考えるようになりました。そして、ここはペアで、ここはグループで考えさせたほうがよいなど、形態も考えられるようになりました。常に、ビデオで見た先輩の授業のイメージが頭にありました。

これも若い頃の話です。私と同年代の先生の実践発表がありました。配布された資料がきれいなのです。レイアウトがよく、見やすく、わかりやすくできていました。読む人のことを考えて作ってあることは明白でした。それからは、私も、今まで以上に、相手意識をもって資料を作るように心がけました。こういった資料を作る先生は、授業も、生徒のことを考えて、工夫しているのではないかと思ったものです。

福島県中学校教育研究会には、福島支部をはじめ１４の支部があります。それぞれの支部で、組織も活動内容も少しずつ違います。どの支部も、改善を重ねながら、充実した研修の機会になるよう進めています。

福島支部（地区）はどうでしょうか。道徳が教科化され、先生方の意識は変わってきたのではないでしょうか。道徳の研修の機会はありますか。例えば、福島地区中教研の夏の研究協議会で、道徳部会には、希望者も参加できるようになったら、どうでしょう。特別活動は、どうでしょうか。特別活動は、どの先生にも関わることです。しかし、研修の機会は多くはないでしょう。道徳と同じように、希望者が特別活動部会に参加できるとしたら、どうでしょう。

橘高校と福島東高校に教育コースができました。これは、教員志願者減少と関わる話です。福島地区中教研の夏の研究協議会に、教育コースの高校生が見学に来たらどうでしょう。先生方が、生き生きと実践発表をし、活発に意見交換する姿を高校生が見るのです。将来、教職を目指す高校生が増えるかもしれません。

福島地区中教研は、これから変わっていきます。約３２０名の会員の皆様の声を聞きながら、より魅力ある研修の場となれるよう、改善を図りながら前に進んでいきます。先輩の授業が私に刺激を与えてくれたように、互いに切磋琢磨できる福島地区でありたいと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

これは、福島地区中学校教育研究会の会報原稿である。福島地区には、県の事務局がある。「隗より始めよ」である。事を始めるには、自分からやりださなければならない。